

# 1頭の盲導犬が育つまで

盲導犬はたくさんの方々の協力と愛情に支えられて育ちます。盲導犬がどのように誕生し、引退した後はどうなるのか、そしてどんな人たちと関わっていくのか、盲導犬の一生をご紹介します。

## 誕生

盲導犬をめざす子犬達は、盲導犬に適した繁殖犬から生まれます。子犬たちは生後2ヶ月になるまで母犬の下で、兄妹犬たちと遊んだり、喧嘩をしながら毎日元気に暮らします。

健康管理に一番気を付けています。散歩やお出かけでは、楽しく過ごせるように、気を配るようにしています。子犬たちが無事産まれ、元気に育ち、パピーウォーカーさんのところへ行った時にはほっと一安心です。  
繁殖犬飼育ボランティアをしていて良かったと、心から感じます。



木戸さん

繁殖犬飼育ボランティア

## 生後2か月ごろ

生後2か月ごろになると、「パピーウォーカー」という子犬を飼育するボランティアの家庭に預けられ、およそ10か月間、愛情をこめて育ててもらいます。

パピーウォーカー家族と一緒にさまざまな場所へ出かけ、色々な経験をする中で、子犬たちは人間との信頼関係を築き、社会のマナーも学びます。



エルモとバスコロさん

パピーウォーカー

エルモは、預かった当初は散歩もあまり好きではない子でした。「人と一緒に歩くことはとても楽しい」と伝えるため、エルモへの接し方を工夫し、いろいろな場所へ、一緒に行きました。一緒に暮らせる期間は短いですが、大切な家族として愛情を持って接し、信頼関係を築き、エルモが楽しく過ごせるように心がけています。

## 訓練スタート

一歳になると、盲導犬協会に戻り訓練が始まります。訓練には、大きく分けて「基本訓練」と「誘導訓練」があります。

基本訓練は、ハーネスをつけずに行います。犬とのコミュニケーションを通じて信頼関係を築くための訓練です。

基本訓練がある程度すすむと、次はいよいよ誘導訓練です。ハーネスをつけ、角や段差で止まる訓練、街中を歩く訓練、電車やバスの乗り降りなど、視覚障がい者を安全に誘導する為の訓練をします。約6～12か月間、訓練犬たちは盲導犬になるための訓練を受けます。

白杖で歩いている方は沢山見ましたが、盲導犬を見かけることがありませんでした。盲導犬を必要としている方は沢山いるはずだと感じ盲導犬訓練士の道へ進みました。盲導犬の訓練では、一頭一頭どうしたらその犬が一番理解できるかを考えながら訓練しています。



山田 大さん

日本盲導犬協会 盲導犬訓練士